



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	2015年度『ホームカミングデー』報告(学会記事)(fulltext)
Author(s)	澤田,康徳
Citation	学芸地理(72): 87-87
Issue Date	2016-12-26
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/147295">http://hdl.handle.net/2309/147295</a>
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

## 2015年度『ホームカミングデー』報告

東京学芸大学では、学園祭の時期に卒業生に大学へ再訪してもらう企画として、ホームカミングデーを設けています。それにあわせて、地理学分野でもホームカミングデーに講演会を開催したり、最近では学芸地理学会共催で卒業生の方がたくさん発表したりという企画を数回開催してきました。当初は、合同棟で1～3人に講演していただき、数名のOBと院生～学部3、4年生、そして教員が参加するスタイルでした。最近では、企画の主体が卒業生です。発表者も10～20人程度、参加者も述べて30人程度と盛況でした。場所は、卒業生でしたら誰もが思い出深い「8階地理学演習室」です。そこで、一人10分～30分程度の発表があり、予定があったら発表者の方でも、公聴者の方でも適宜お暇するスタイルです。学園祭時期にあわせた学芸地理学会の活動スタイルも、数年で大きく変わりました。ここに将来の学芸地理が発展していく大きな可能性を、参加した方ならどなたも感じたのではないのでしょうか。

雑誌学芸地理も70号を越えました。学芸地理学会創設以来、東京学芸大学自体も大きく変わり、地理学分野のスタッフも最近10年で半分変わりました。学芸地理学会も現在過渡期で、総会も雑誌も変化しています。ホームカミングデー企画についても、目的は同じでも内容も形態も当初とはずいぶん変わりました。学芸地理を支えている大黒柱は、院生～学部生で、これだけはずっと変わってこなかったのかもしれませんが、これからの社会の変動とともに学芸地理学会も大きく変わっていく、その姿がこの学園祭期間にも現れていると感じました。2015年度のホームカミングデー企画の概要を下に示しました。卒業生や在学生在が楽しめる、学芸地理の

様々な企画がそうになっていけたらと思っております。

### 《概要》

1. 期日：平成27年11月1日(日)10:00～18:00
2. 場所：人文社会科学系研究棟1号館（通称サンシャイン）8F 地理学演習室
3. スタイル：持ち時間15分、教員は30分。当日は出入り自由。発表・報告につきましても、飛び入り発表も可。テーマは自由。旅の報告、地元紹介、教育実践、問題提起、私の研究紹介などなど。まじめなものから、お気楽なものまで、地理や教育に関係すれば何でもあり。多くの方にお話いただき、交流タイムを充実させるため、持ち時間は超えない。
4. 参加費：卒業生1000円（または差し入れ）。学生・院生は無料。

（教員 澤田康徳）